

株式会社ふるさと鹿野 経営状況報告書

1 法人概要

- | | |
|-------------|--|
| (1) 名 称 | 株式会社ふるさと鹿野 |
| (2) 目 的 | 行政とともに推進していく第三セクターの民間組織として、温泉宿泊施設、特産品の製造、販売や飲食サービスの提供といった収益性の高い事業と、まちづくりや体験交流といった公益性の高い事業の取組による連関効果を図り、公民連携の企業経営を展開して、鹿野地域の活性化、雇用創出等の役割を担う拠点機能をめざしている。 |
| (3) 設立許可年月日 | 平成16年 8月17日 |
| (4) 設立登記年月日 | 平成16年10月 5日 |
| (5) 資 本 金 | 金35,000,000円（うち鳥取市17,550,000円） |
| (6) 役 員 構 成 | 取締役7名 監査役2名
代表取締役社長 長尾 裕昭 |
| (7) 事務所所在地 | 鳥取市鹿野町今市972番地1 |

2. 令和7年度事業実施状況

核となる施設の「山紫苑」は宿泊休憩とも計画人数には届かなかったが、冬場のカニプランが好調であったことに加え外訪セールスの効果や、じゃらん・楽天などOTAのお得なプランの積極的な参画なども功を奏し、10年ぶりの黒字となった。

「しかの温泉館」は大幅な利用者減少により赤字計上となった。年度当初の料金値上げによる利用者の減少は想定していたが、9月頃まで続いた猛暑や2月のサウナ工事による2週間の休業、11月のいい風呂の日チケット販売取りやめなどが売り上げに影響した。

「そば道場」はスタッフの入れ替わり時期と重なり体験利用が多少減少したが、食堂利用の増加や、11月のメニューリニューアルに併せた値上げなどにより、売り上げに貢献した。

「おもしろ市場」は出荷者の減少に伴い商品不足が常態化し、利用者が大幅に減少したことで売り上げが減少、5年連続赤字計上となった。

「そば処」もインスタ発信などPRにも努めたが利用者が減少しこちらも5年連続赤字計上となった。

「加工所」はそばやとち餅など餅類の販売に努めたが前年度並みの売り上げに留まり、経費出費に於いて機械の修繕や除雪費の増加、製造に係る人件費の増加などにより前年度に続き赤字計上となった。

「切花」は普段の月はマイナスであるが8月9月3月の盆や彼岸で利益を出し、特に3月の彼岸で最終利益を確保する形となっている。

「農業」は猛暑で夏野菜が計画通りにいかなかったものの、交付金の増加やコメの高騰により前年度より719万円増加し、そばの生産が前年度より数量売上ともに増加したこと

で大幅な黒字計上となった。

「交流館」は「ONSEN ガストロノミーウォーキング」や「レトロ展」、「和紙の華展」などイベントや展示が好評で多くの利用があった。

全体を通し山紫苑が黒字に転換し、そば道場はじめ農業部門の安定した黒字経営、特に農業の黒字拡大により、赤字部門をカバーし最終利益を確保することができた。一方で、想定外の赤字となったしかの温泉館、おもしろ市場の赤字解消など早急な課題解決が必要となっている。

3 令和7年度決算書

(1) 貸借対照表 (令和8年3月31日) 現在

(単位:円)

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
1 流動資産	72,409,017	3 流動負債	34,511,074
(1) 現金	2,676,344	(1) 買掛金	15,905,101
(2) 預貯金	36,721,327	(2) 未払い費用	14,011,235
(3) 未収金	16,674,869	(3) 預り金	△ 68,762
(4) 棚卸資産	16,316,477	(4) 納税充当金等	232,500
(5) 前払費用	0	(5) 前受金	0
(6) 仮払金	20,000	(6) 仮受金	0
(7) 立替金	0	(7) 未払消費税	4,431,000
		(8) 短期借入金	0
		4 固定負債	120,166,000
		(1) 長期借入金	120,166,000
2 固定資産	26,572,606	負債合計	154,677,074
(1) 有形固定資産	25,172,606		
(2) 無形固定資産	0	5 資本の部	△ 55,695,451
(3) 投資その他資産	1,400,000	(1) 資本金	35,000,000
		(2) 自己株式	△ 1,950,000
		(3) 別途積立金	49,000,000
		(4) 当期末処理欠損金	△ 137,745,451
資産合計	98,981,623	負債資本合計	98,981,623

(2) 損益計算書 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 営業損益の部		Ⅲ特別損益の部	0
1営業収入	410,769,714	1特別利益	6,850,000
2売上原価	108,326,736	2特別損失	6,850,000
3売上総利益	302,442,978	(1) その他特別損失	0
4販売費及び一般管理費	299,195,142	(2) 固定資産除却損	0
(1) 人件費	160,867,347		
		Ⅳ税引前当期利益	2,679,708
(2) 事業費	129,999,135		
		Ⅴ法人税及び住民税	232,500
(4) 諸税負担金	1,215,136		
		Ⅵ税引後当期利益金	2,447,208
(5) 雑費	7,113,524		
		Ⅶ前期繰越欠損金	140,192,659
(6) 施設使用負担金	0		
		Ⅷ当期末処理欠損金	137,745,451
4営業利益	3,247,836		
Ⅱ営業外損益の部			
1営業外収益	1,188,577		
(1) 受取利息	69,014		
(2) 雑収入	1,119,563		
(3) 受託料	0		
(4) 貸倒引当金戻入	0		
2営業外費用	1,756,705		
(1) 支払利息	1,539,492		
(2) 雑損失	217,213		
3経常利益	2,679,708		

(3)財産目録

(1)貸借対照表の資産の部および負債の部と同一につき省略

(4)剰余金計算書

前期繰越欠損金	140,192,659 円
当期利益金	2,447,208 円
当期末処理欠損金	137,745,451 円

(5)剰余金処分計算書

別途積立金	49,000,000 円
次期繰越欠損金	88,745,451 円

4 令和8年度計画

核となる施設の「山紫苑」は前期黒字化した実績を基に、顧客満足度はキープしながらAIやDXを活用して更なる効率化・省力化に取り組み2年連続の黒字を目指す。「しかの温泉館」は利用者の高齢化に対し、施設環境が追い付いていない状況であるが、令和7年度に改修したサウナの強みを前面に出し、地域の魅力を絡めた情報発信と来館者の満足度アップに取り組み利用者の増加を図る。「そば道場」・「そば処」は時間を掛けてでも食べに行きたい場所となるよう鹿野そばのブランド力にさらに磨きをかけ、利用者拡大とそばの消費拡大に努める。「おもしろ市場」は高齢化による出荷者の減少等が要因となり、商品不足が常態化していることから、可能な範囲で運営体制を見直し赤字からの脱却を図る。「加工所」については、鹿野そばの加工商品の販売強化と需要のある餅づくりの生産をはじめ、需要のある時期に集中した「切花」の出荷等、前期以上にメリハリを付けて収益確保に努める。農業は食糧問題や環境保全問題など国全体が大きな課題を抱える中、当地域の重要な役割を担いながら地道に結果を積み上げてきており、今では農業部門があることが強みとなっている。今期はこの追い風を機に中長期に渡り安定した地盤づくり・体制づくりができるよう取り組んでいく。「交流館」は、当地域の観光拠点として地域の魅力を広く発信し、諸団体との連携をさらに強化するとともに新たな賑わいづくりにも挑戦し、来訪された方々に喜んでいただけるよう取り組んでいく。会社全体として、集客施設の利用者拡大と収益事業、独自事業の利益拡大により2年連続黒字を目指す。

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 営業損益の部		III 特別損益の部	0
1営業収入	413,850,934	1特別利益	0
2売上原価	110,583,910	1特別損失	0
3売上総利益	303,267,024		
4販売費及び一般管理費	297,786,957	IV 税引前当期利益	4,352,791
(1)人件費	164,426,863	V 法人税及び住民税	232,500

科目	金額	科目	金額
(2) 事業費	125,722,894	Ⅵ税引後当期利益金	4,120,291
(4) 諸税負担金	1,170,200	Ⅶ前期繰越欠損金	137,745,451
(5) 雑費	6,467,000	Ⅷ当期末処理欠損金	133,625,160
(6) 施設使用負担金	0		
5 営業利益	5,480,067		
Ⅱ 営業外損益の部			
1 営業外収益	190,000		
(1) 受取利息	0		
(2) 雑収入	190,000		
(3) 貸倒引当金戻入	0		
2 営業外費用	1,317,276		
(1) 雑損失	0		
(2) 支払利息	1,317,276		
3 経常利益	4,352,791		